OTA City Landscape and Urban Planning Award

街並み景観部門

景観づくり活動部門

2019–2020

第3回 大田区景観まちづくり賞

募集期間

令和元年5月15日（水）～8月30日（金）

応募件数

街並み景観部門　45件（43物件）

景観づくり活動部門　6件（6活動団体）

大田区

発行：令和2年7月

賞の趣旨

大田区景観まちづくり賞は、景観まちづくりへの関心を高め、大田区らしい魅力あふれる景観形成をさらに推進することを目的として、下記の2部門で募集を行いました。

募集部門

部　門　名	街並み景観部門	景観づくり活動部門
募 集 内 容	地域の個性が感じられる、あるいは魅力的な景観形成に貢献しているもの ・建築物等　・街並み（公共空間を含む） ・みどり（樹林地、生垣等）　等	区民・団体・事業者等が取り組む、魅力的な景観形成に貢献している活動
表彰対象者	景観形成に貢献した建築物等にかかわる所有者（個人、事業者）・設計者・施工者等	活動の主体である個人・団体・事業者等

募集期間

令和元年5月15日（水）～8月30日（金）

応募件数

街並み景観部門　45件（43物件）　景観づくり活動部門　6件（6活動団体）

審査方法

大田区景観審議会の下部組織である景観賞専門部会が審査を行いました。

■選考委員（敬称略、◎は部会長）

氏名	所属
大澤 昭彦◎	高崎経済大学准教授、大田区景観審議会副会長
落合 正行	日本大学理工学部助教
杉田 早苗	東京工業大学環境・社会理工学院助教、大田区景観審議会委員
杉山 朗子	日本カラーデザイン研究所シニアコンサルタント、大田区景観審議会委員
二井 昭佳	国士舘大学教授、大田区景観審議会委員
加藤 芳夫	大田区景観審議会区民委員
喜多河 康二	大田区景観審議会区民委員
鈴木 邦成	大田区景観審議会区民委員

表彰対象

総評

街並み景観部門

第3回を迎えた大田区景観まちづくり賞であるが、今回から、景観まちづくり賞の周知を目的として、区立小中学校でのポスターの掲示やwebによる応募を可能とするなど新しい取り組みを行った。街並み景観部門の応募総数は45通、43件と前回に比べて減少したものの、その内容は充実しており、応募内容も多岐に渡った。例えば、「臨海部における大規模な倉庫やオフィス、公園などがつくる景観」「農地、水路、庭園といった市街地に息づく水や緑の景観」「町工場や商店などの歴史的資源を活かした下町の街並み」「質の高い戸建て住宅を核とする山の手の街並み」のほか「建物や空間のリノベーションによって地域に新たな魅力をもたらした物件」も複数応募があった。

こうした幅広い応募物件によって、大田区の景観の多様性が改めて再確認できた。その一方で応募物件が幅広いものであるがゆえに、統一的な評価軸を定めることが困難でもあった。こういった難しさがありながらも、選考を行った景観賞専門部会においては活発な意見交換が行われ、街並み景観部門8件を選定した。

選定された8件のうち6件の特徴を概観すると、『KOCA』については、ともすれば人びとが敬遠する負の空間となる恐れのある高架下を、大田区の特徴ともいえる「ものづくりの拠点」として再生する試みである。また、『中馬込生産緑地群』は、都市における貴重な資源として見直されつつある農地が、大田区らしい地形の起伏と相まって、特徴的な「農の風景」を生み出している。『田園調布駅舎（復元）・東急スクエアガーデンサイト』は、地域のランドマークとして親しまれてきた駅舎と商業施設が一体となった駅前景観として捉えることができよう。『伊藤家住宅主屋』と『赤松と暖炉の煙突が見えるRC造の佇まい』の2件に関しては、台地における質の高い閑静な住宅地を代表する優れた物件といえる。一方、臨海部における『東京流通センター物流ビルB棟』は、無機質で殺風景になりがちな工場・倉庫群において洗練された景観をもたらしている。

残りの2件、『六郷用水復元水路』と『大田区立勝海舟記念館とその周辺道路』は公共施設である。前者は、復元された歴史的な用水路が周辺の住宅地と調和しながら、区民の憩いの場として親しまれている。後者は、国登録有形文化財の建物を保存・再生するとともに、周辺道路の修景を施すことで、洗足池周辺の景観に新たな魅力をもたらしている。行政が行政の物件を表彰することに対しては、景観賞専門部会の中でも賛否が分かれた。ただ、良いものは良いと評価して、景観形成に寄与する物件を広く区民に知ってもらうことは、大田区の景観まちづくりを発展させる上では意義があると判断し、いわば特別賞のような位置づけとして選定した。

また、選外となった物件についても、昭和の住宅や倉庫をリノベーションし、今後のストック再生のベンチマークとなり得るもの、臨海部の景観を先導するようなデザイン的な試みがうかがえる物件、さらには緑の少ない密集市街地において庭園や中庭を創出する取り組みなど、大田区らしさがうかがえる魅力的なものが少なくなかった。今後も継続的な街並み景観づくりとともに、次回以降の更なる応募も期待したい。

3回を数える大田区景観まちづくり賞は、大田区の景観の魅力を再認識する機会を提供してきたと思われるが、区内にはまだ多くの魅力的な街並み景観が残されていると思われることから、区民のみなさまからの積極的な応募をいただきたい。また、大田区らしさを活かした新たな景観をもたらす創造的な取り組みがますます進展することが望まれる。

景観づくり活動部門

景観づくり活動部門については計6通の応募があった。街並み景観部門と同様に応募は減少傾向にある。応募内容を見ると、景観美化活動や清掃活動、公共空間の活用など、主に地域の魅力向上を目指した活動が中心であった。

審査過程では、まず事前の書面審査により、評価の高い物件を選んだ上で、書面ヒアリング調査候補団体として3団体を選定した。その後、書面ヒアリング調査で活動内容を確認した上で、最終審査が実施され、詳細な議論を経て、表彰対象として2団体を選定した。「景観づくり活動」という評価が難しいテーマに対し、地域の景観への貢献、地域のまちづくりへの貢献・波及効果、活動の自発性や継続性、今後への期待度など、さまざまな観点から議論を行った。

今回選定した『ART FACTORY城南島 アート活動』と『矢東おやじの会 美化活動』は、ともに景観への貢献に関しては、景観賞専門部会の中でも意見が割れたものの、地域の景観づくりへの貢献、自発性、継続性が評価された。『ART FACTORY城南島 アート活動』は、臨海部の工場・倉庫街の中に文化の拠点という新しい顔をもたらしてきた点が特徴であり、地域の子供たちも参加する『矢東おやじの会 美化活動』は、景観まちづくり教育の実践例ともみなすことができよう。

また、選外となった団体の中にも、地域の活性化や賑わい形成に寄与する活動として高く評価されたものがあったが、活動が緒についたばかりであったために今回は見送ったものもあった。また、地域の魅力づくりには重要な活動ではあるが、地域の景観づくりへの波及効果が見えにくかったものも対象外となった。だが、これらの活動が地域に果たす役割は大きい。その重要性は表彰団体の活動と変わるところはない。今後も継続的な活動によって地域の魅力を高めていくことを期待したい。

受賞団体には、景観づくり活動の継続はもちろんのこと、さらなる活動の充実と発展によって、地域の景観まちづくりに寄与することを望む。

景観賞専門部会部会長：大澤 昭彦
（高崎経済大学准教授、大田区景観審議会副会長）

街並み景観部門

名　称	**赤松と暖炉の煙突が見えるRC造の佇まい**
受賞者	岸川 昭夫
所在地	（非公開）
写　真	（右下写真：1970年（昭和45年）岸川旧自邸）
概　要	東京大学大学院（池辺 陽（きよし） 研究室）で研鑽を積み修了、建築家・教育者として活躍した嶺岸 泰夫氏が設計し、1987年（昭和62年）に建てられた邸宅で赤松を活かしたRC造（鉄筋コンクリート造）の建物である。昭和初期に池上線が敷設され、周辺の住宅地に住宅が建ち始めた当時から樹齢100年を迎えようとしている赤松が景観の特徴となっている。 設計にあたり、この赤松を保全していくため、赤松の配置を踏まえた設計がなされた。赤松は、所有者の維持管理もあり、現在も住宅地の貴重な緑となっている。
表彰理由	区内でも有数の邸宅地にあり、古くから培われてきた風景そのものが、今ではまちの魅力となっている。その魅力要素の一つとして、都心では数少ない豊かな緑が挙げられる。しかし、住宅地の緑はそのひとつひとつが個人の所有物であるため、まとまった保全が難しく、住民それぞれの意思に委ねられている。 そのなか、この「赤松と暖炉の煙突が見えるRC造の佇まい」は、長い間赤松が保護され、継承され続けてきた。一般に、建築物は個人の意思とは無関係に、文化の衰退と技術の発展にともない、その様相は画一化される場合が多いなか、この赤松のように所有者個人の意思一つで残すことができれば、住宅街に個性を生み出すことができる。現に過去の写真からも、建物が建て替わっても赤松だけは残り続けていることから、保全しようという強い気持ちが感じられ、赤松と建物の一体感こそが今回の評価に値する。これから先も、これまで以上にこの赤松を愛し、このまちの景観づくりに関わり続けてほしい。 **景観賞専門部会委員：落合 正行** （日本大学理工学部助教）

街並み景観部門

名　称	伊藤家住宅主屋
受賞者	金井 純
所在地	（非公開）
写　真	（写真：河田 弘樹）
概　要	伊藤家住宅主屋は、現在のチェコに生まれ、後にアメリカ市民権を獲得したアントニン・レーモンド氏設計の1963年（昭和38年）築の木造２階鉄筋コンクリート造地下１階建の邸宅である。2016年（平成28年）に国の登録有形文化財に登録されるとともに、大田区景観計画に基づく景観資源【文化財等】にも指定されている。 斜面地にある敷地形状にあわせた台形平面を持ち、鉄筋コンクリート造の車庫等の上部に木造２階建の家屋を載せている。また、２階バルコニーと一階の大開口が印象的で、内装の化粧ベニヤ板の使用、円柱を独立して建てる手法などにもレーモンド事務所の設計の特徴が見られる。
表彰理由	大田区の景観の特徴の一つが斜面地に広がる住宅地である。その坂のまちで、主屋は南向きの斜面を活かしてのびのびとした眺めを満喫するように配置されていて、地形の魅力を伝えてくれている。街並みに貢献する緑は手入れも行き届いており、住む人の品格が伝わる住宅であり、結果として街並みのイメージを向上している点が評価された。戦前から日本で活躍したアントニン・レーモンドは日本で木造住宅をつくる際に、日本の風土・気候に対応して開放性を持たせ、足場丸太と鉄板はぜ葺き、立て板張り、深い軒といった“レーモンド・スタイル”を大切にしたというが、伊藤家住宅も道路側からそれらの特徴がみてとれる。戦前は洋風の横方向の下見張りが中心だったようだが、戦後さらに日本人の方位観や自然観などの研究を進め縦張りにしたという。やや濃いめの茶に塗られた木の部分とコンクリート打ち放しの煙突のコントラスト、大谷石など、色の扱いも含めて日本家屋の素材の使い方などを深く考察した結果なのであろう。今も日本らしさの解釈の一つを見ることができる嬉しさを感じる。日本、そして大田区の地形や地域性を考えた先駆的な事例であり、現代でも坂のまちの景観を創り上げる好例と言えるであろう。 **景観賞専門部会委員：杉山 朗子** （日本カラーデザイン研究所シニアコンサルタント、大田区景観審議会委員）

街並み景観部門

名　称	KOCA
受賞者	株式会社＠カマタ 京浜急行電鉄株式会社
所在地	大森西6-17-17 京浜急行本線「梅屋敷駅」より徒歩1分

写　真

（写真：山内 紀人）

概　要

KOCAは、京浜急行本線大森町駅と梅屋敷駅の間の高架下約300mの範囲につくられ、2019年（平成31年）4月にオープンした梅森プラットフォーム内に位置するインキュベーションスペース（創業支援施設）である。施設の運営主体でもある（株）＠カマタと、馬淵建設（株）が共同で設計し、シェアオフィス棟、工房棟、スタジオ2棟の計4棟の建物と、まちに開かれたオープンスペースで構成される。地域の様々なリソースをつなぎ合わせ、大田区の「ものづくり」をアップデートする拠点となることを目指している。

表彰理由

現在、都内各地で進められている連続立体交差事業（鉄道の高架化）であるが、これによって生じる高架下空間は、周囲に閑散としたイメージを与えることから、その活用方法は景観まちづくりにおいて重要なテーマである。単に高架下空間を有効利用しただけの、周辺地域との関係が希薄な場合が多いなか、この「KOCA」は大田区ならではの「ものづくり」に焦点を当て、町工場の技術力とクリエイターの発想力が交差する新たな場を高架下に創出させた取り組みである。

しかも、高さのある高架下空間に建築物を目一杯に詰め込むのではなく、あえてボリュームを小さく低く抑えることで、周辺住宅地との調和を図りつつ、高架と建築物の間に屋外スペースをつくり、広場や路地にテーブルやベンチ、植栽などが配され、創作活動がまちに滲み出る工夫もみられた。

また、この施設を運営する「＠カマタ」は、かつてから蒲田で活動する地元の建築や不動産、アートを専門とする集団であり、建築物だけでなく活動としても、今後の発展性に大きく期待できることから評価した。区内の他の高架下も、このような地域的活用が波及することを願う。

景観賞専門部会委員：落合 正行
（日本大学理工学部助教）

街並み景観部門

名　称	**田園調布駅舎（復元）・東急スクエアガーデンサイト**
受賞者	東急電鉄株式会社 東急株式会社
所在地	田園調布3-25-18、田園調布2-62-3 東急東横線・目黒線「田園調布駅」直結

写　真

概　要

いずれも東急東横線・目黒線の田園調布駅地下化に伴い、復元・計画されたもので、一体的な景観を創出している。

田園調布駅舎は、1923年（大正12年）に目黒蒲田電鉄（東急電鉄の前身）が建築した田園調布駅舎を復元したものである。マンサード・ルーフという特徴的な屋根形状を有し、田園調布の特徴である放射道路の起点に位置し、田園調布のシンボルとなっている。

東急スクエアガーデンサイトは、駅地下化に伴う上部利用を契機とし開発されたショッピングセンターである。地域の環境に配慮して、緑の中にヒューマンスケールの建物を分棟形式で配置し、調和のとれたデザインとなるよう、当初の計画時から住民とともに計画された。

表彰理由

田園調布は大田区を代表する住宅地として知られており、大正時代に欧米のまちを参考とした放射線状の道路網並びにロータリーの中心に復元された田園調布駅舎があり、地域と調和したユニークな景観・環境が保たれ人々に親しまれている存在である。

田園調布駅の地下化により上部の駅前再開発として、地域住民の要望を踏まえた景観と環境を調和させた駅舎の復元と駅前のショッピングセンター（東急スクエアガーデンサイト）は、大田区の文化・景観的財産として評価する。

大田区内の再開発に際し、地域住民の民意を尊重した文化の継承と景観・環境と調和に配慮したまちづくりの一つの指針（手本）となることを期待する。

景観賞専門部会委員：喜多河 康二
（大田区景観審議会区民委員）

街並み景観部門

名　称	**東京流通センター物流ビルＢ棟**
受賞者	株式会社東京流通センター
所在地	平和島6-1-1 東京モノレール「流通センター駅」より徒歩1分、京浜急行本線「平和島駅」より バス約4分、JR京浜東北線「大森駅」よりバス約12分

写　真

概　要

東京流通センターは、4棟の物流施設からなる大規模な物流センターで、大田区の代表的な物流施設であると言える。今回、表彰の対象となったのは、4棟のうちのひとつである物流ビルＢ棟である。物流ビルＢ棟は2017年（平成29年）6月に竣工した最新鋭の物流施設であり、大田区景観計画に基づき景観形成が図られた施設でもある。

建物は、長大な壁面に歩廊とルーバーを設け、特徴的なファサードとなっている。また、敷地外周の桜並木を出来るだけ残し、外部歩道や道路に対してうるおいある景観を生み出している。

表彰理由

対象物件を中心に構築される景観は、流通団地倉庫群とモノレールがつくる大田区らしい景観の一つと考えられる。当該地区は機能性だけではなく和らげるデザインにも配慮し、地域開発が促進されることが望ましいが、大田区景観計画にも書かれている車窓からの眺めに配慮したものになっている。大田区らしさのある複数棟で構成される巨大な物流施設であるが壁面や周辺の空間を樹木などで彩をつけようとしている。

対象物件は倉庫街を代表する施設であり、近年相次いで誕生している高いレベルの物流オペレーションに適した、いわゆるマルチテナント型自走式物流施設の原点ともいえる施設で、建て替えにより昭和の雰囲気を残しつつも、歩車分離構造や免震構造などの安全・安心を追求した設計により新しい建築物に生まれ変わっている。

ルーバーをうまく活用し、建物のスケールをうまく落としている点、沿道の桜を守っている点、控えめな敷地境界の柵にしている点など、街並みとの関係を保つ設えも評価できる。今後は倉庫街の中心で拠点施設として位置づけ周辺景観アップにつながるように展開してほしい。

景観賞専門部会委員：鈴木 邦成
（大田区景観審議会区民委員）

街並み景観部門

名　称	**中馬込生産緑地群**
受賞者	波田野 章 波田野 健一郎
所在地	中馬込3丁目

写　真

概　要

中馬込3丁目にある生産緑地群である。

1ヶ所は馬込の生産者により結成された園芸研究会が1953年（昭和28年）に開園した「馬込シクラメン園」である。シクラメンの生産・販売を行っている。

もう1ヶ所もシクラメン園同様、道路からはハウスが見え、道路を挟んで反対側の敷地において、パンジーなどの花の生産を行っており、販売も行っている。

また、いずれも、道路沿いに緑豊かな生垣があり、街並み景観に潤いを与えている。

表彰理由

本件は近接して残る2カ所の花卉（かき）栽培地であり、大田区に残る数少ない都市農地である。長く続く緑の生垣の向こうには栽培ハウスが並び、そこではパンジーやシクラメンなど彩り豊かな花卉が栽培されている。斜面地に広がる栽培ハウスと斜面林は、東海道新幹線の車窓からも望むことができる。

馬込地区では1953年（昭和28年）からシクラメンの栽培が始まり、最盛期には13軒の農家がシクラメンを生産していたという。現在では生産農家は減少したものの、「シクラメンゆかりの里」としてシクラメンやその他の花卉が生産されている。

地域に長く親しまれた花卉栽培の風景は、馬込地区の歴史を伝える大切な存在である。また、大田区に残る貴重な都市農地の風景であることに加え、周囲の住宅街と調和し地区一帯の景観の質を向上させている点などが高く評価された。

都市づくりにおいて都市と農はこれからの大きなテーマである。都市の中に織り交ぜられた都市農地のある風景の好事例として、今後も長きに渡り継承されることを期待するものである。

景観賞専門部会委員：杉田 早苗

（東京工業大学環境・社会理工学院助教、大田区景観審議会委員）

街並み景観部門

名　称	**大田区立勝海舟記念館とその周辺道路**
受賞者	（公共施設のため、受賞者無し）
所在地	南千束2-3-1及びその周辺 東急池上線「洗足池駅」より徒歩6分

写　真

概　要

大田区立勝海舟記念館は、国の登録有形文化財である旧清明文庫を活用し、2019年（令和元年）9月に開館した全国初の勝海舟の記念館である。旧清明文庫は、洗足池にあった海舟の別宅「洗足軒」や墓所の保存や、海舟に関する図書の収集・閲覧、講義などの開催を目的に、財団法人清明会が1933年（昭和8年）に開館したものである。2012年（平成24年）に大田区の所有となった。大田区景観計画では景観資源【文化財等】にも位置づけられている。

勝海舟記念館の整備にあたっては、その外観に配慮しつつ、増築及び改修工事が行われた。また、記念館の整備に合わせて、中原街道から記念館に至る道路についても景観整備が行われた。

表彰理由

現地視察を含む審査では、昭和初期のネオゴシック様式を基調とした歴史的建造物の丁寧な修復、異なる素材やセットバックなどの工夫により歴史的建造物を引き立てる新設建築のデザイン、歴史的建造物の外壁を内部空間に取り込むといった展示の工夫により、魅力的な記念館となっている点が評価された。また、記念館の外構と隣接する区道とで舗装を統一し、記念館側の歩道端部に植栽スペースを設けるといった工夫により、記念館と街路空間が一体となった景観を生み出し、風致地区・洗足池の街並みの魅力に大きく貢献している点も高く評価された。この記念館と街路空間の一体的な景観は、庁内の関係部局の協働により生まれたもので、今後も区内のさまざまな公共空間で展開されることを期待したい。なお審査では、東側の区道側の新設建築のファサードに対し、もう少し街並みに配慮したデザインが望まれたという意見があったことを申し添えておきたい。

景観賞専門部会委員：二井 昭佳
（国士舘大学教授、大田区景観審議会委員）

街並み景観部門

名　称	**六郷用水復元水路**
受賞者	（公共施設のため、受賞者無し）
所在地	田園調布本町 東急多摩川線「沼部駅」より徒歩約2分（東光院脇（復元された水車がある部分）まで）

写　真

概　要

六郷用水は、徳川家康の江戸開府に伴う新田開発のための用水路として、小泉次大夫が14年の歳月をかけ開削したもので、1611年（慶長16年）に竣工した。大田区の農業の発展に大きく寄与したが、その後宅地化、工場の進出に伴い灌漑用水としての使命を終え、そのほとんどが現在、埋め立てられている。

今回、表彰の対象となった「六郷用水復元水路」は、復元水路として整備されている区間のうち、中原街道との交差部から東光院脇までの約400mの区間で、1982年度（昭和57年度）頃に大田区によって遊歩道と一体となった親水水路として復元整備されたものである。1988年度（昭和63年度）には、国土交通省の「手づくり郷土（ふるさと）賞」を受賞している。大田区景観計画では当該区間を含む「旧六郷用水散策路」が景観資源【道路】にも位置づけられている。

表彰理由

現地視察を含む審査では、国分寺崖線の豊かな緑と桜並木に囲まれ、石積の水路を眺め気持ちよく歩ける水辺の遊歩道となっていること、地域の居場所となる休憩施設と合わせ地域の大切な生活道路として機能していることに加え、品格のある住宅地の風景を演出し、地域の歴史を伝える地域遺産としての役割を果たしていることが高く評価された。ガイドブックでの紹介や市民団体によるガイドツアーなども実施されており、地域の愛着の深い場所となっている。

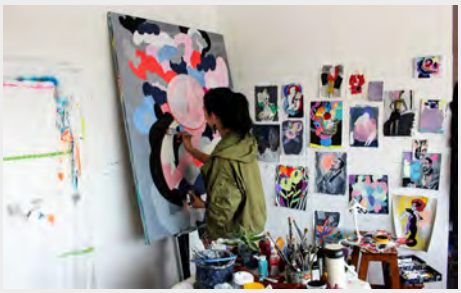
整備後30年以上が経ち、改修が必要な時期が近づいているが、水面を近く感じられる低い柵や木陰をつくる街路樹、自然石による境界部のしつらえといった現在のヒューマンスケールの空間を継承することで、これからも地域に愛される魅力的な風景が維持されることを願っている。

景観賞専門部会委員：二井 昭佳
（国士舘大学教授、大田区景観審議会委員）

景観づくり活動部門

名　称	ART FACTORY 城南島 アート活動
受賞者 （活動団体）	株式会社東横イン
活動場所	城南島2-4-10（ART FACTORY 城南島） 京急バス「森32系統（城南島循環）」にてJR京浜東北線大森駅（東口）・京浜急行本線大森海岸駅または平和島駅・東京モノレール流通センター駅（南口）より「城南島二丁目」下車徒歩3分

写　真



活動概要

ART FACTORY 城南島は、（株）東横インが社会貢献活動の一環として提供する芸術・文化振興のために、所有している倉庫建物を再利用した施設である。館内にアーティストが作品制作を行うスタジオ（アトリエ）やアート作品の鑑賞スペースがあり芸術・文化振興に資する活動が行われている。また、外観の改修により、工場などが立地する城南島において新たな景観を生み出している。

表彰理由

臨海部の城南島に立地する本件は、スーパーエコタウンをはじめとする工業専用地域にあり、賑わい創出や多数の集客力に期待しづらいエリアである。その地区の中心部に倉庫のリノベーション物件が新たな魅力や景観を創出している。外観は赤系の色彩をアクセントとした建物で周辺にも配慮した景観づくりを提案している。館内はアーティストが作品制作を行うスタジオ（アトリエ）やアート作品の鑑賞スペースを提供している。

このように、味気ない工場地帯に倉庫を再利用した芸術・文化施設が周辺景観に明るさを醸しだしている。2014年秋より企業の社会貢献活動の一環で芸術・文化振興の常設展や定期的な企画展やイベント、体験教室などを開催し入場無料で見学・公開している。特に大田区と連携した「おおたオープンファクトリー」の拠点のひとつであり、城南島工場見学バスツアーや他団体との連携企画なども行っている。

今回の表彰がきっかけで、多くの皆さんに関心を持っていただき、継続的な活動に繋がれば、地区内の文化・芸術・アートなどの情報発信拠点として周辺の景観づくりに寄与することが期待できる。

景観賞専門部会委員：加藤 芳夫
（大田区景観審議会区民委員）

景観づくり活動部門

名　称	**矢東おやじの会 美化活動**
受賞者 （活動団体）	矢東おやじの会
活動場所	矢口東小学校外周及び小林公園・三丁目公園・一丁目公園 東急池上線「蓮沼駅」東側周辺

写　真

活動概要

矢東おやじの会は、小学校のおやじの会が中心となった組織で、大人だけでなく子どもも参加して、学校の外周及び近隣公園、通学路の清掃活動など環境美化活動を主に行っている。拾ったごみを使ってキャラクター作品をつくる活動も行うなど、楽しさの要素も加えながら活動している。環境美化活動を通じて、環境美化や地元への意識を高めるとともに、大人と子どものコミュニケーションを積極的に図っている。

表彰理由

矢口東小学校のお父さん達が中心となって作られた矢東おやじの会は、年に3～4回、子供たちと一緒に学校の周辺や通学路、近隣公園を清掃することを通じて、子供たちに自分たちの地域を自分たちで綺麗にしていくことを意識づけする活動を行っている。参加した子供たちからは、「道路にまたタバコが落ちているよ。」など地域環境を気にかける発言が聞かれるようになり、また一緒に参加する大人も、地域への美化意識だけでなく、自分たちの地域の状況や子どもの遊び場の理解を深めているという。

矢東おやじの会の活動は、直接的に景観形成を行う活動ではないが、景観づくり活動の前提となる地域への関心や愛着づくりに大きく貢献するものであり、また子供たちがこうした活動に参加している点が評価された。

活動期間は3年とまだ短いことから、これからの活動の継続を期待するとともに、子供たちの主体性を活かした活動内容の広がり、そして地域の風景として現れるような活動へと展開することを大いに期待する。

景観賞専門部会委員：杉田 早苗

（東京工業大学環境・社会理工学院助教、大田区景観審議会委員）

［過去の表彰対象］

第1回 大田区景観まちづくり賞

募集期間	平成27年7月13日（月）～10月30日（金）
応募件数	街並み景観部門　72件（67物件）　景観づくり活動部門　18件（15活動団体）
審査委員	野原 卓、福井 恒明、杉田 早苗、杉山 朗子、田中 友章、平澤 芳雄、荘 真木子、加藤 芳夫

街並み景観部門

桂川精螺の工場建築［矢口3-24-1］

ヤマトグループ 羽田クロノゲート
［羽田旭町11-1］

紅葉通り（旧同潤会の住宅分譲地）
［南雪谷4-3・10の一部、南雪谷4-4・9］

小池の風景と住宅地［上池台1-36の周辺］

蓮月［池上2-20-11］

景観づくり活動部門

洗足池及び周辺地区における環境保護・育成活動
［洗足池とその周辺地域］

池上6・7丁目、東矢口周辺の花とみどりのコミュニティ活動
［池上6・7丁目、東矢口1・2丁目の一部］

OTA City Landscape & Urban Planning Award
2015–2016

第2回 大田区景観まちづくり賞

募集期間	平成29年5月15日（月）～7月31日（月）
応募件数	街並み景観部門　59件（51物件）　景観づくり活動部門　9件（9活動団体）
審査委員	野原 卓、福井 恒明、杉田 早苗、杉山 朗子、大澤 昭彦、田中 友章、加藤 芳夫、喜多河 康二、鈴木 邦成

街並み景観部門

明神湯［南雪谷5-14-7］

多摩川浅間神社とその周辺［田園調布1-55-12］

大田区における中庭を有するモダニズム邸宅群 清家清旧自邸など［非公開］

大田区における中庭を有するモダニズム邸宅群 久ケ原の家・続久ケ原の家
［久が原］

大田区における中庭を有するモダニズム邸宅群 建築家　山口文象自邸（CROSS CLUB）
［久が原4-39-3］

いけのうえのスタンド［上池台四丁目］

景観づくり活動部門

大田区池上梅園茶室「清月庵」の移築・復元活動
［池上2-2-13（池上梅園内）］

東京都京浜島工業団地協同組合連合会による環境美化活動等［京浜島］

OTA City Landscape Urban Planning Award
2017–2018

大田区

大田区 まちづくり推進部 都市計画課
〒144-8621　東京都大田区蒲田五丁目13番14号　TEL 03-5744-1333　FAX 03-5744-1530

大田区　景観　検索